

カルメル

霊性センターニュース



フラ・アンジェリコ画 「受胎告知」

2021年10月

379号

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

【教皇フランシスコ 2020年8月26日一般謁見の講話から】

わたしたちは危機に直面しています。このパンデミックにより危機に陥っています。パンデミックの危機から脱した後、前より良くなるか悪くなるかです。これがわたしたちの選択です。考えてみようではありませんか。

次のような選択が課せられています。危機の後も、社会的不正義のもとに、環境、被造物、わたしたちの共通の家をないがしろにする、この経済システムが続行されるのでしょうか。このことについて考えましょう。21世紀のキリスト教共同体がこれらの現実——被造物を大切にすることと社会正義——を取り戻し、主の復活をあかしすることができますように。創造主が与えてくださったものを大切にすれば、また、自分の所有物をすべての人に行き渡すよう、分かち合うことができるなら、より健全で平等な世界を築く希望を、真に生み出すことができるでしょう。

最後に、子どもたちについて考えましょう。統計を調べてみてください。どれほど多くの子どもたちが、不当な富の分配や、先ほどお話しした経済システムのせいで、餓死していることでしょうか。また同じ理由のために、どれほど多くの子どもが教育を受ける権利を奪われていることでしょうか。わたしたちが、食べ物も教育も十分に得られずに苦しむ子どもたちの姿に促され、よりよい形でこの危機を脱しなければならないことを理解することができますように。



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
京都	32
キリスト教放送局 FEBC のご案内	34
諸所の企画案内	35
郵送お申込みのご案内	40
あとがき	41

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第四十三章 空しい世俗の知識

3 騒々しい言葉

学校で十年間勉強するよりも多く、永遠の真理の基礎を悟れるように、謙遜な者の知恵を一瞬にして上げるのは私である。私は騒々しいことばを用いず、学説の議論を避け、名誉を求めず、論争もせず、人間に教える。この世を軽蔑すること、現在を軽んじ、永遠を求め、天をあらかじめ味わうこと、名誉を避けること、つまずきを忍ぶこと、すべてを神により頼むこと、私以外に何一つ望まないこと、すべてを超えて私を深く愛すること、これらを教えるのは私である。

4 私は神秘を示す

ある人は、私を深く愛することによって神を知り、感嘆すべき言葉を語った。この人は複雑な問題を研究することよりも、すべてを捨てることによって、いっそう霊的に進歩したのである。しかし、私は、ある人に一般的なことを、ある人には特殊なことを、ある人には象徴とたとえを用いて、ある人には光を与えて、私の神秘を示した。書物に書かれていることは一つであっても、すべての人に一様に教えるわけではない。人の心を真理で照らすのは私であり、その心底を探り、考えを知り、おこないを導き、おのおのに適切な知識を分け与える。》

第四十四章 外部のことに関心をもちすぎてはならない

1 主

《子よ、あなたは、多くのことを知らないほうがよい。自分はこの世に死んだ者、この世は自分にとって、すでに十字架に釘づけられた者と思いなさい(ガラテヤ6・14参照)。また、この世の俗事の間を通り抜けても、それに耳をふさぎ、あなたの平和を確保することだけを考えるほうがよい。議論して争うよりも、賛成できないことなら聞かないようにして、人が思いたいように思わせておくほうが、あなたにとってよいことです。もしあなたが、神のみ前に正しく生き、他人の行為を判断する時にも、神の判断に頼るなら、争いに負けた時も、たやすく恐るだろう。》

2 子

《ああ主よ、私たちはどうしてこれほど愚かなのでしょうか！私たちは物質的な損害のために嘆き、わずかなもうけのために奔走し労苦するのに、霊的な損失はすぐ忘れ、取り返しがつかなくなってから、思い出すのがせいぜいです。私たちは、大して役に立たないことに気をつかうのに、非常に大切なことをなおざりにするので。人間は外部のことにおぼれた時、すぐ立ち直ろうとしなければ、たやすくそのなかに沈みきってしまいます。》

2021 聖ヨセフ年—10 ヨセフ と テレサ



コロナ禍でも開催された「2020年オリンピック、パラリンピック」後、さらに強力なウィルスとの新たな戦い、そしてテロとの戦い、避難・難民の移動・・・と日々新たな闇、霧に覆われる日々は気候変動からの災害・・・でも、9月のはじめには庭の片隅に彼岸花がちよっと早めに顔をのぞかせ、「いのち」の賛歌を歌っていました。

聖ヨセフに私たちの祈りを向けましょうと教皇フランシスコは言われます：

あがない主の保護者、おとめマリアの夫よ、
神はあなたにご自分の御子を託し、
マリアはあなたに信頼を置き、
キリストはあなたと共に、人となりました。

10月15日は、今年教会博士号授与50周年を迎えているテレサ教会博士の祝日です。聖テレサは聖ヨセフを光栄ある弁護者、保護者として選び、熱心に彼に祈ったと『自叙伝』に記しています。

「私は聖ヨセフにお願いして、聞きいれていただけなかった覚えは今まで一度もありません。…他の聖人方はある特別の必要にさいして、私たちを助ける権能を神から受けておいでになるように思えます。しかし聖ヨセフは、私たちのあらゆる必要に際して助けてくださることを、私は経験によって知っています。…

イエスは、聖ヨセフを地上で父と呼び、自分の養育者、自分に命令する権威をもっている方として、彼に従われました。天においても、そのすべての願いに従われるということ、私たちにわからせようと思われるのです。…

特別に念祷の靈魂は、聖ヨセフに敬愛の心をもつべきです。なぜなら天使の元後のこと、そして幼きイエスさまと共に忍ばれたすべての苦しみ、その時このお二人をあれほどよくお助けになった聖ヨセフに感謝せずに思うことは、できないと思いますから。…

念祷を教えてくれる師をもたない人は、聖ヨセフを導き手となさい。そうすれば迷う心配はないでしょう。」



聖女の聖ヨセフに寄せる信頼のうちに、10月の日々を過ごされますように。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（46）

くのり 彰

この世からの離脱は、この世の価値観からの離脱であり、それはとりもなおさず、自己離脱となることが、前回指摘された。

しかし、離脱ゆえの離脱ではない。「わたしのため、また福音のために」自分を捨てることが求められているのである。つまり、神への愛のため、キリストへの愛のために、自分を捨てていくのである。このことを、アビラの聖テレジアは、見事にこう言い表している。

離脱とはからだは離れることよりも、むしろ、魂が決然として、私どもの主、よきイエズスさまにかたくつくことだと私は思います。かれのうちにいっさいを見いだすので、他のいっさいを忘れてしまうのです。（『完徳の道』9,5）

自分を愛さない人はいない。しかし、自愛心に凝り固まる時、すべての関係、すなわち神と人、人と人、人と物の関係が、気がつかないうちにゆがんでいく。それは、自分を中心に、神や人や物との関係が整えられていくからであろう。

このような意味で、離脱とは愛の離脱だと言える。私たちは神以外のものをたくさん愛しており、そのような自分を利己的に愛しているからである。この世のもの（物や人、富や名誉や地位など）や小さな自分を愛することをやめ、すべてのものを分け隔てなく愛しておられる神の愛の大海に、自分を投げ入れるのである。その時、初めて神が真実、すべての中心となる。神は神となり、私たちは神の子（民）となるのである。

アビラの聖テレジアは、「真に神を愛する者は、いのちも名誉も軽んじなければならない」とし、こう述べている。

繰り返して申しますが、すべては――あるいは、ほとんどすべては、自分自身と自分の安楽を気にするのをやめることにかかっています。真実に神にお仕えし始めた者が、神におささげできるいちばん小さなものは、自分のいのちにきまっています。（同上 12,2）

生にも死にもこだわらず、すべてを神の愛にゆだねていく聖女の深い信仰が垣間見られる。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（161）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス

監禁されていた時の誘惑①

監禁された十字架のヨハネ修道士には、逃亡への誘惑が絶えず襲いかかりました。彼が幸いにも、この誘惑に負けたのは、1578年中旬、牢獄に入れられてから9カ月後のことです。

けれども私は、ここではこの過激な誘惑に触れるのではなく、聖テレジアの誘いと要請によって始められた改革事業に背を向けるよう彼に現れた誘惑に触れたいと思います。

誘惑の戦略には、二つの段階があります。第一段階では、厳格な道によって彼を弱らせようと試みます。鞭打ち、パンと水、叱責です。人々は彼を「目の詰まったやすり」と呼んでいました。彼が何も返事をしなかったからです。人々は、彼が聖人とみなされることを望んでいると非難しました。修道服を変えたのは、命令することを望んだからで、この前提に基づいて彼に院長の地位が与えられたのだと。それに対し、命を失おうとも、始めたことをやめないというのが、彼の答えでした。なにものも、彼の意志と誠実さをくじくことは、できませんでした。



年間 第27主日

(マルコ10:2-16)

「だから二人はもはや別々ではなく、一体である。

従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」

本日の福音で、私たちは結婚と離婚に関するイエスの教えと、子供たちへの態度を読みます。キリスト者が結婚したら、それは死ぬまでです。離婚と再婚は姦通となります。

ファリサイ派の人たちは離婚に関してイエスを試したかった、だからこの質問をしたとマルコは言っています。彼らはユダヤ人の中にある離婚をイエスが認めなかったことを聞いていたに違いなく、イエスがモーセに反することを言うのを聞きたかった、そしてイエスが律法を受け入れないとしてイエスを告発しようとしたのです。彼らの質問に答えるように望んだのは、イエスをその教えにより陥れるためでした。しかし、イエスは「結婚において、男と女は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」と述べ、結婚の大切さを重視しました。結婚の秘跡における男性と女性の結びつきは、キリストと教会との結びつきに譬えられます。

私たちは皆、結婚において二人のパートナーがお互いに仲良くやっていくのはかならずしも簡単ではないことを知っています。それは、結婚が全ての関係性のうち最も完成したものの一つでありながら、最も要求の厳しいものだからです。夫と妻は、結婚に力と弱さ、愛と憎しみ、痛みと傷、希望と期待、喜びと悲しみ、などをもたらします。ですから、継続する結婚のためには、第一に、そして一番必要なものは、夫婦がお互いのあるがままに受け入れることを学ぶことです。それは主との特別な契約に基づくお互いへの神の贈り物だからです。それでイエスは、有効な結婚は永久であると言われたのです。結婚への真の同意と完成があったキリスト教徒どうしの秘跡による結婚は、夫婦の一方が死んだ場合を除いて、絶対に解消できないと教会は常に明確に教えています。

イエス・キリストにおいて親愛な兄弟姉妹の皆さん、死にいたるまでの結婚生活における夫婦の一致と、幸福な家庭生活を心からお祈りいたしましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第28主日

(マルコ10:17-27)

今日のみことばですが、イエスが旅に出ようとされ、ある人が走り寄ってひざまずき尋ねた時の話です。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには何をすればよいでしょうか。」この問いに対してイエスは、まず「善い」ということに関して、神おひとりのほかに、善い者はだれもいないと言われ、そしてその問いの答えをユダヤ人が知っている「掟」、「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え」を話されます。

そのイエスの答えに対し、その人は子供の時から、そういうことはみな守ってきたと答えます。走り寄ってイエスの前でひざまずいたその人の姿勢を見ると、真剣に心から「永遠の命を受け継ぐ」ことを求めて、その人はイエスのところに来たのでしょう。

「イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。」と語られます。ご自分のもとに来た人の姿勢、心、その人を大切にされるがゆえに、愛するがゆえに、慈しまれ、お答えになりました。「あなたに欠けているものが一つある。」…と。そして具体的に言われましたが、その人は残念ながら、そのイエスの言葉を受け止めることはできませんでした。

財産を沢山持っている人がそれを手放し、イエスに従っていくのは、難しいのですね。持ち物を売り払い、貧しい人に施すなら、天に富を積むことになると、イエスは言われ、自分の今の現実の状況から離れ、天に富を積む行為に踏み出す様に導こうとされますが、安定した状況から離れることは、おそらく難しかったのでしょう。イエスの言葉に気を落として、悲しみながら立ち去ったとありますから。

弟子たちに「財産のある者が神の国に入ることは、なんと難しいことか」と言われたイエス。驚いた弟子たちに対して重ねて「神の国に入るのは、なんと難しいことか」と言われます。神の国に入ることの難しさが強調されていますね。さらに付け加えられて、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しいと言われます。

神の国に入る一救われることの難しさ、財産のある者、金持ちが神の国に入ることの難しさが語られますが、イエスは神は何でもできると言われます。神に信頼して歩むなら

(Fr. 古川利雅)

年間 第29主日 (B)

(マルコ10:35-45)

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」

本日のマルコによる福音書では、イエスと使徒たちの様子がはっきりと描かれ、2人の使徒の野心や残りの使徒たちの憤りのほか、「仕えてもらうのではなく仕える者になるべき」という大切な教えが記されています。

栄光を受けたイエスの右と左に座ることをお願いしたヤコブとヨハネが、力と地位と名誉を求めていたことは明らかです。偉大な人物の隣に座れば自分も偉大になれるという考えです。しかしイエスは、「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか」と言われました。「できます」と即答した2人は、偉大さと栄光の杯から飲んで幸せに満たされることを期待します。ただ実際には、「できます」という答えによって、自分の意思ではなく神のみ旨を行うこと、たゆまず自分を捨てて謙遜の道を歩むこと、そしてキリストの苦しみと十字架に与ることという大きな挑戦が課されます。イエスの飲む杯を飲むとは、永遠の生命を得るために地上の生命を失うようなものです。イエスがここで語る杯と洗礼とは、ご自身のいけにえの死と新しいいのちを指します。

他の使徒たちは、ヤコブとヨハネの願いに立腹します。ヤコブとヨハネが彼らよりも優位になり、あらゆる特権を手にすると思ったからです。そこでイエスは、一同を呼び寄せて、誰が右や左に座るかを決めるのはご自分ではなく、御父が定められた人のものだと教えます。さらに、「仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げる」ことがご自分の使命だと伝えました。つまりすべての人の僕として、謙遜さ、真理、愛と犠牲のうちに仕え、人々を罪から救うために自分をいけにえとして献げるのです。

人の偉大さの基準は、自分が何を所有しているかや他者から何をもらえるかではなく、自分が他者に何を与えるか、なのです。私たちは、愛を込めて人に奉仕する生き方に招かれています。

(Sr. Paulina)

年間 第30主日

(マルコ10:46-52)

エリコの町で一人の盲人がイエスに向かって叫びます。「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください。」人々が黙らせようとしても、彼はますます叫びます。「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。」

イエスだけが、この人の叫び声に何かを聞き取ったようです。「あの男を呼んできなさい。」と振り向かれます。

イエスの招きを受けた盲人は、「上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た」といいます。どれほどイエスに会いたかったか、イエスのそばに行きたかったかが表現されています。

続いてイエスは彼に尋ねられます。「何をしてほしいのか。」盲人は答えます。「先生、目が見えるようになりたいのです。」

イエスは言われます。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」。すると盲人はすぐに見えるようになりました。

このとき、イエスは彼に「行きなさい」と言われたのですが、彼は「なお道を進まれるイエスに従った」というのです。

このイエスに従う盲人の姿に、「わたしを憐れんでください」と叫んでいた動機があります。彼は、イエスに従いたくても従えなかったことを憐れんでほしいと願ったのです。ただ見えるようになりたかったのではなく、イエス様のそばに行き、イエス様に従いたいから目が見えるようになりたかったのです。

イエス様はその心を感じ取り、「あなたの信仰があなたを救った」と言ったのでしょ。目が見えるようになることは確かに素晴らしいことです。しかし、イエス様のそばにいて、イエス様について行くことはもっと素晴らしいことです。そのもっと素晴らしいことを実現するためにこそ「見えるようになりたい」。その心を読み取ったからこそ、イエス様は彼に奇跡をもたらしたのだと思います。

彼は、人から黙らせようとされても叫び続け、求め続け、願い続けてイエス様について行く人となりました。ここに信仰があります。私たちも同じ動機でイエス様に向かうなら、どんな障害でも取り除いていただけるはず。誰もがイエス様の弟子になることが神様の御心だからです。本気で求め、探し、たたくことで、イエス様との出会いの門を開けていただきましょう。

(今泉健 神父)

年間 第31主日

(マルコ12:28b-34)

今日のみことばは、イエスの言葉じりをとらえて陥れようとして、人々がヘロデ派やファリサイ派の人々を数人イエスのところに遣わした際の出来事です。この話の前には、「皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているかいらないか」「7人の兄弟の長男が子を残さず亡くなり、次男がその妻を妻として子を残さず亡くなり、三男、そして七人とも亡くなり、妻も亡くなった。復活の際に女は誰の妻になるのか」という様なやりとりもありましたが、イエスはきちんとお答えになり、その場を切り抜けてゆかれました。

そして今日の間答に。「彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。」とあるのでイエスの答えは、律法学者が評価できる答えだったのでしょうか。イエスを陥れようと、人々がヘロデ派やファリサイ派の人々を数人遣わし、悪意を持ってイエスと問答をしていたのとは対照的に、律法学者はイエスが立派である、正しいと評価し、自分の疑問をイエスに尋ねてみたのでしょうか。

「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」この問いに対し、第一の掟、そしてそれだけでなく第二の掟をイエスは示されました。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」この二つにまさる掟はほかにない…と。

イエスが立派に答えられたのを見ていた律法学者は、「先生、おっしゃる通りです。」とイエスの答えを評価して「神は唯一である。ほかに神はない」とおっしゃったのは、本当ですと言い、イエスの答え…すなわち重要な掟は、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れていますと、自分の見解をイエスの前で述べました。

イエスを陥れようとした人々とは対照的に、イエスを肯定的に受け止めて、積極的にイエスに疑問をぶつけた律法学者。彼のイエスの答えへの見解に、イエスは「あなたは、神の国から遠くない」と言われます。神との関わりで、真摯に最も重要な掟を求めようとした律法学者は、神の国から遠くない（神の国に近い）者となって歩んでゆきます。

私たちも真摯に神との間での重要な掟を大切に、歩んでゆくことができますように。心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛しつつ歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

糸巻き棒からペンへ (68)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

常に真理を求める誠実な女性として、次のような問いがおのずと浮かんできました。「長い間、私は自分を欺いてきたのでは？ これらの年月、私が光を求めて相談してきた多くの助言者たちも、私にだまされていたのではないか？」彼女を慰めたのは、彼女自身が告白しているように、キリストご自身でした。「私が修道院創立のために外に出ることを悪いことだと考えている人々は、もっともだ、私は絶えず祈りに専念しているほうが良いのだと考えているとき、主は『生きている間は、私を味わおうと努力することではなく、私の意志を行うことにこそ、恵みがあるのだ』と言われました。聖パウロが女性は閉じこもるようにと命じているので(少し前、このことを思い出しましたが、すでに前に言ったことです)、このことは神の意志であると私には思われました。神は私に言われました。『聖書の一部だけに従わないように、他の箇所も見るように、もしかすると私の手をしばることになるかもしれないと、彼らに言いなさい』と」(CC16)。このように、主の助けと多くの想像力と粘り強さとで、すべての障害をかわしながら、彼女はその事業を実現するために堅忍することができたのです。

冒険の結末

死に至るまで彼女は、オリジナルでした。それは、彼女が67歳の時、1582年10月4日のことです。その場に居合わせた者たちは、彼女のきわめて意味深長な言葉を二つ取り上げています。一方で、彼女はこう言いました。「ついに、私は教会の娘として死ぬる」と。それは、名誉回復を求める叫びのようです。疑われ、しばしば脅しを受けながら生きたにも関わらず、彼女の敵たちは、彼女をキリストの共同体から追放するところまではいきませんでした。他方では、イエスの方に向きながら、死の直前に、こう叫びました。「歩みだすときです」と。多くの人々が彼女を閉じ込め、活動させないようにと望みました。しかし、彼女は、キリストへの奉仕と男子修道者たちへの奉仕という道を生涯走り抜け、死後もそれを続けようと考えていたのです。

(P.九里訳)

そうすれば、結び目や絡まった糸ばかりに見える私たちの人生の織物に、実は神様の愛が美しい模様を、私たちの信仰（という布）の上に織りなしていることに気づくでしょう。

そして、小さなことにおいても、大きなことにおいても、毎瞬間、神様のこうした愛に信頼を持って完全に自分自身をゆだねることです。

普段の生活の中で、神様の愛に自分をゆだねられるようになれば、大きな試練や病気、あるいはまさに死に直面する時などの逆境にあっても、神様はご自分を信頼する力を私たちに与えてくださるでしょう。

では、やってみましょう。神様がご自分の計画を明らかにされ、それによって私たちが慰めを受けられるから、といった見返りを期待してではなく、純粹に愛ゆえにこのように生きてみましょう。信頼のうちに自らを神様にゆだねることが、私たちにも、多くの人にとっても、限りない光と平和の源となることが分かるでしょう」³。

困難な選択をするときに、神に委ねること。グアテマラの O.L.さんが語っています。

「私は老人ホームで調理師として働いていました。ある日廊下で一人の高齢女性が水を飲みたいと懇願していました。調理師の私は厨房から出てはいけない決まりになっていたのですが、私は彼女に愛情をこめてコップを差し出しました。彼女の目が輝きました。半分飲み干したところで、『10分だけ一緒にいてちょうだい！』と私の手を握りました。私は、クビになるかも知れないからできない、と説明しましたが、その眼差しに心が動き…。そばに残りました。

彼女は私に『天におられる私たちの父よ...』と一緒に祈ってほしいと言いました。それから『何か歌ってくれないかしら、お願いだから』と。そのとき私の脳裏に浮かんだのは（私たちは天国へ）『何も持っていくことはできない。愛だけを携えていくことができる...』ということでした。

他の利用者さんたちは私たちをじっと眺めていました。この女性はとても喜んだ様子で、『娘さん、神があなたを祝福されますように』と私に言いました。その後ほどなくして、彼女は亡くなりました。

ルールに反して厨房を出たことで、私は解雇されました。遠く離れた私の家族は、私の経済的な援助を必要としています。でも私の心は平穏で幸せです。なぜなら私は、あのとき神様の呼びかけに応え、人生で最も重要な一歩を、あの女性は一人ぼっちで踏み出すことにならなかったからです」。

レティツィア・マグリ

¹ ローマ 8:22-27 参照

² 黙示録 21:1 参照

³ キアラ・ルービック、1984年の「いのちの言葉」より

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2021年8月25日

2021年 跣足カルメル修道会 総会



2021年8月9日の総長のビデオメッセージでは、いつもとは少し違って、「この画面の交信で始めたいと思います。」との言葉がありました。ご存じのように総会は、8月30日月曜日からローマで開催されます。これには、5大陸から総勢95名のカルメル会士が招集されています。彼らに加えて4名の司祭ではない修道士と、1983年～1993年生まれの名の若い修道士が招かれており、彼らはカルメルでの喜び、願望、ビジョンと将来について総会出席者たちと分かち合うことになっています。

さらに総会運営のために、事務局、翻訳、典礼、広報、教会法などで奉仕する11名の修道士がいます。

これは修道会上げての、教会的な一大行事をともに祝うために集う国際的な総会です。

総会で大切なのは、“時のしるしをみる”(マタイ16:3)のために、霊が諸教会に告げられることを聞く”(黙示録 2:7)こと、“そしてエルサレムばかりではなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てにいたるまで、私の証人となる。”(使徒言行録1:8) ためです。それは、私たちの聖なる母イエスの聖テレジアのことばによれば、“私は神のために何ができるかを考えた末、先ず第一に私のなすべきことは、主が私をお呼びになった修道生活の召命の義務に応えることだと思いました。”(自叙伝32:9)です。

新型コロナウイルス感染パンデミックとそれに伴う多くの規制は、今年の総会の準備に少なからぬ煩雑さをもたらしました。幾人かの修道士たちは、残念ながら旅することができません。他の人たち、ブラジルやインドからは出入国許可を取得するために多くの労苦を要しました。彼らは実に“忍耐は全てのことを成し遂げる”で来られました。

幾人かの総会出席者たちは、総会前にイタリアの保健省から要求されているコロナ感染の検疫を受けるために、既にローマ(又はイタリア)に来ています。

ローマのカルメル会のテレジアヌム（教皇庁立国際学院）の修道士たちは、総会のために建物の一部を40人分の宿泊室に提供しています。

8月29日の夕刻に、全員がラサールハウスに集合します。この名前から分かるように、この施設は教育修道会のブラザーの所有物です。バチカンから徒歩25分のアウレリア街道沿いにあり、180人収容できて総会を催すのに必要な設備が整っています。5ヘクタールの美しい庭園もあり、第92回総会はこの施設で開催されます

皆様方との交わりをもてるように、次の3つの方法で総会の進行状況を見ることができます。

- ・ ウェブサイト: <https://www.carmelitaniscalzi.com/>
- ・ フェイスブック: <https://www.facebook.com/CuriaGeneraliziaCS>
- ・ ツイッター: <https://twitter.com/ocdcuria>

総会の情報は、英語、スペイン語、フランス語、イタリア語でなされます。毎日その日の終わりに、日報を出します。選挙の結果は分かり次第即刻お知らせします。注意:もしフェイスブック、ツイッターができなくても問題ありません。私たちのウェブサイトの最後のページに、すべての内容が調べられる二つのウインドウがあります。

では、総会と修道会すべてのために、使徒言行録の次の言葉を生き続けていけるようともに祈りましょう。“教会は平和を保ち、主を畏れ、聖霊の慰めを受け基礎が固まって発展し、信者の数が増えていった”（使徒言行録 9:31）。

2021年9月4日(土曜日)

この日は、スペイン語グループが典礼を担当しました。説教でコロンビアの管区長、カルロス アルベルト オスピナ アレナス神父は、この私たちのもつ多様性において、神のみ言葉で結ばれなければならないと話しました。私たちが、神のみ言葉を堅固に持つならば、恐れもこころの偏狭さもなく、活力と霊の自由を持つことができます。私たちは、キリストの愛に築かれた教会のためにここにいます。

午前の会議では、副総長のアウグスティ ボレル神父が、テレジア的カルメルのカリスマについて、カリスマ宣言を提示しました。このテキストは、2015年のアピラでの総会で始められ長い道のりを費やして出来上がった結実です。はじめに取り組んだことは、聖なる母聖テレジアの著書を読むことで、それから会憲を再読し、最後に2019年のゴア（インド）での総長顧問会で、私たちのカリスマ宣言が書かれることが決まりました。このテキストは、総会で討議され承認されることになっています。

午後には、4時に総会のメンバーたちは、新総長選挙の前に聖霊に祈りをささげるため聖堂に集まりました。私たちは、“ベニ クレアトル スピリトゥス”（創造主なる聖霊よ、来てください。）の歌を始め、続いて神のみ言葉

と聖アルベルトの会則の朗読を聴いて、最後に沈黙の祈りの時を持ちました。その後、総会会場に戻り新総長選挙に入りました。

そして、総会は跣足カルメル修道会の新総長にミゲル・マルケス・コッレ(マリアのミゲル)神父を選出しました。彼は、1965年10月5日にスペインのプラセンシア(カセレス県)で生まれ、初誓願を1985年10月21日に立て、荘厳誓願を1989年に宣立して、1990年6月21日に司祭に叙階されました。選挙の後私たちは聖堂に戻り、テ・デウムを歌いました。

それから皆は、新総長と順次挨拶を交わすために前方に進み、終わりにサルベレジナを歌って締めくくりました。私たちは、ミゲル神父がこの役職をお引き受けくださったことに感謝いたします。そして私たちは、跣足カルメル修道会と教会への奉仕のため彼の新しい任務に同伴し、祈ることを約束致します。

(翻訳：小宮山延子)





2021年 秋号 No.382

- 信仰生活(再)入門(14) 聖書に学ぶ祈りの道(6)
 —「見ること」と「祈ること」
 片山はるひ
- 道の霊性(7)—「熱心の道」と「キリストの道」
 田畑邦治
- 「聖なるものとなる」よう呼ばれています
 —アピラのテレサ教会博士授与五十周年記念に
 伊従信子
- 孤独という美しい生き方 森 みさ
- キリストの説かれた 幸いなる道(3) 九里 彰
- 霊的研究会講義録(13)—聖書・祈り・愛について
 奥村一郎



2021年 特集号

- 「向こう岸に渡ろう」
 —パンデミック後の選択—
 向こう岸に渡ろう
 —四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し
 中川博道
- 人類は新たに生まれねばならない
 九里 彰
- 神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて…
 —フランシスコ教皇さまの連続講話
 「この世界をいやす」についての考察
 松田浩一
- 同じ舟に乗る者たちとして
 —『つながり』の霊性を求めて
 若松英輔
- 何も咲かない寒い日—今を問う
 大瀬高司

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
 各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円 (+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
 下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。
 〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ
判型：四六・並製
ページ数：80 ページ
価格：本体 500 円（税込 550 円）
ISBN：978-4-87750-224-9
出版社：カトリック中央協議会

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリッドにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

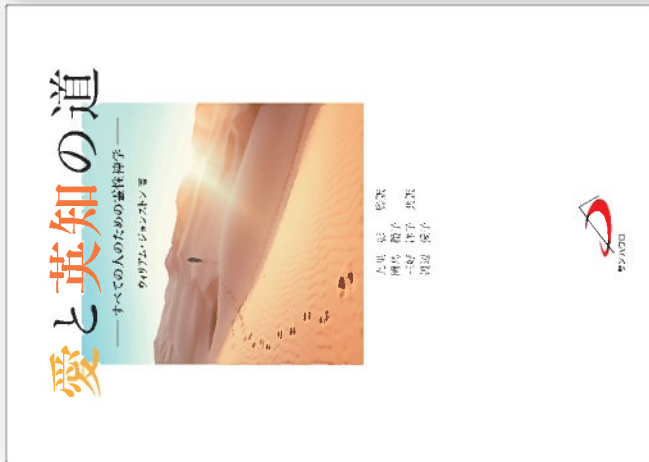
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



2020年のご案内

年間テーマ 手を取りあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

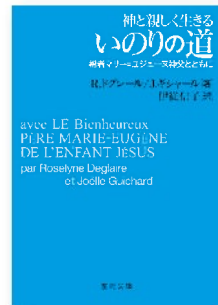
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

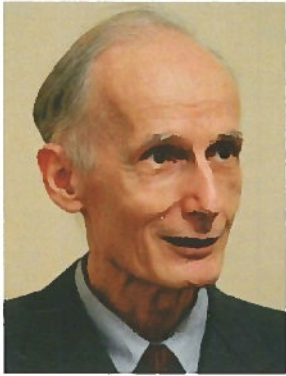
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**
(2021年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(金)~25日(土) 朝食《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

2022年

10月 2日(土)~ 3日(日)

1月 8日(土)~ 9日(日)

11月27日(土)~28日(日)

3月12日(土)~13日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

10月20日 11月17日 12月15日

2022年 1月19日 2月16日 3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

2022年

11月20日(土)~21日(日)

1月29日(土)~30日(日)

3月19日(土)~20日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

12月27日(月)~1月 5日(水)

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

2022年 3月25日(金)~27日(日)

- ・召命黙想会(男女)40歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

11月 5日(金)~7日(日)

- ・カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日16時～日曜日16時)カルメル会士
 10月 9日(土)～10日(日) 2022年
 12月11日(土)～12日(日) 2月26日(土)～27日(日)
- ・特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
 11月12日(金)～14日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル召命黙想会

イエスの愛



日時：2021年11月5日（金）16時～7日（日）16時

場所：カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

対象：召命を考えている、独身の青年男女（40歳まで）

定員：8名

費用：一般 10,000円 学生 5,000円

締切：2021年10月29日（金）

指導：カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

電話：03（5706）7355

FAX：03（3704）1789

E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp



宇治カルメル会 黙想会案内
(2021 年度)

京都の緊急事態宣言に伴い、教区の決定により、現在
9/30までの黙想会をお断りさせて頂いております。
今後の状況により変更される場合があります。

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日（土曜午後5時～日曜午後4時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始
10/30～31

【聖書深読】（午前10時～午後4時）中川博道神父
10/2 11/6 12/18

【水曜黙想会】（第3水曜日）（午前10時～午後4時）
10/20 11/17 12/15
（11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ）
他すべて 中川博道神父

【カルメルの霊性】（午後5時～午後4時）中川博道神父

幼きテレジア 10/2（土）～3（日）
十字架の聖ヨハネ 12/11（土）～12（日）

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般可
11/8（月）～17（水） 中川博道神父
12/27（月）～1/5（水） 中川博道神父

【待降節黙想会】（午後5時～午後4時）中川博道神父
12/4（土）～5（日）

【祭日のミサに参加するために】

*＜聖週間を祈る＞

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*＜クリスマス＞

12/24～25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたしますー

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

キリスト教放送局

FEBBC

2021.4~2021.9

2021年春夏 番組案内

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~

〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

日

夜9:30~

全地よ主を ほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 日基教団 石動教会
4~6月
- [第3] 日基教団 久万教会
- [第4] 日基教団 小岩教会
7~9月
- [第3] ホーリーネス教団
東京中央教会
- [第4] 日基教団
中標津伝道所
- [第5] 各地の教会

月

[月~金] 夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

- 新** 夜9:48~ **聴く信仰**
「いのち」をいただく
御言葉黙想
山内十束
物心ツツク・御受難修道会
宣教師の家の司祭
- 夜9:47~ **幸福宣言**
一主イエスの
山上の説教に聴く
竹森満佐一
日本基督教団元教師
- 夜9:47~ **嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師
- 夜9:47~ **Session**
一イエスのTune
合わせて
早矢仕宗伯
「NCAM-イエスの風」牧師

火

水

木

金

土

- [第1] 夜9:37~ **イエスとの
対話の旅**
一現代霊性神学講座
中川博道 カトリック・
カルメル会宇治修道院司祭
- [第1] 夜10:25~ **外からの「声」**
一FEBBC HANGOUT!
新 [第2] 夜9:47~ **アーンカイブズ**
小林和夫 ホーリーネス
東京聖書学院教会牧師
- [第3~4] 夜9:37~ **生きているとは、
キリスト**
小林和夫 ホーリーネス
東京聖書学院教会牧師
- [第3~4] 夜10:20~ **Meguの
CCM insight**
- 夜9:30~ **海二と恵子の
ピタミンク(再)**
大竹海二
日本長老教会
中部中会巡回教師
- 夜9:53~ **Kishikoの
ひとりじゃ
ないから**
吉崎恵子
- [第1~3] 夜10:04~ **コーヒー
ブレイク・
インタビュー**
インタビュー
吉崎恵子・長倉崇宣
- [第4~5] 夜10:04~ **交わりのことば**
一祈りの旅路
夜10:31~ **黙想のとき(再)**
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

日

月

火

水

木

金

土

日

- 夜9:47~ **Session**
一イエスのTune
合わせて
早矢仕宗伯
「NCAM-イエスの風」牧師
- 夜9:47~ **嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師
- 夜9:47~ **幸福宣言**
一主イエスの
山上の説教に聴く
竹森満佐一
日本基督教団元教師
- 夜9:48~ **聴く信仰**
「いのち」をいただく
御言葉黙想
山内十束
物心ツツク・御受難修道会
宣教師の家の司祭
- 夜9:47~ **嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師
- 夜9:47~ **Session**
一イエスのTune
合わせて
早矢仕宗伯
「NCAM-イエスの風」牧師
- 夜9:47~ **嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師
- 夜9:47~ **幸福宣言**
一主イエスの
山上の説教に聴く
竹森満佐一
日本基督教団元教師
- 夜9:48~ **聴く信仰**
「いのち」をいただく
御言葉黙想
山内十束
物心ツツク・御受難修道会
宣教師の家の司祭
- 夜10:14~ **主に向かって
歌おう**
飯靖子
日基教団 豊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト
- 夜10:14~ **光、イイス
というお方(再)**
ゲオルギイ
松島雄一
日基教団 大坂/リストス
証教会 管轄司祭
- 夜10:14~ **五十嵐
ジュンの
The
Contemporary
Christian Music**
- 夜10:14~ **Echo of
Voices**
長倉崇宣
- 夜10:14~ **主に向かって
歌おう**
飯靖子
日基教団 豊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト
- 夜10:14~ **光、イイス
というお方(再)**
ゲオルギイ
松島雄一
日基教団 大坂/リストス
証教会 管轄司祭
- 夜10:14~ **五十嵐
ジュンの
The
Contemporary
Christian Music**
- 夜10:14~ **Echo of
Voices**
長倉崇宣
- 夜10:28~ **聖書を開こう**
山下正雄
RCJメディア
ミニストリー代表
- 夜10:28~ **ふらっと
トーク**
中川信一
長倉崇宣
- 夜10:28~ **FEBBC Sprout!**
長倉崇宣
- 夜10:28~ **御足の跡を**
小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所 牧師
- 夜10:28~ **神からの
メッセージ**
グレゴリオ聖歌
橋本周子
聖グレゴリオの家
宗教音楽研究所 所長

- 夜9:30~ **全地よ主を
ほめたたえよ**
主日礼拝取材番組
- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 日基教団 石動教会
4~6月
- [第3] 日基教団 久万教会
- [第4] 日基教団 小岩教会
7~9月
- [第3] ホーリーネス教団
東京中央教会
- [第4] 日基教団
中標津伝道所
- [第5] 各地の教会
- [第2~5] 夜10:27~ **神からの
メッセージ**
グレゴリオ聖歌
橋本周子
聖グレゴリオの家
宗教音楽研究所 所長

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)

2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)

3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)

4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)

5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)

6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ14・34)

7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)

* * *

9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)

12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
名古屋入門 A	10/17(日) 9:30-17:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
入門 A	10/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
名古屋入門 B	11/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子
広島サダナ I&アドバンス	11/20(土)17:30- 23(火・祝)16:00 *通いも可	Fr植栗 Frアレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター受付 デスク 082-239-0034
入門 B	11/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院	来間(くるま) 裕美子※
名古屋入門 C	12/4(土) 9:30-17:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子
広島サダナ II I	2022 年 1/6(木)17:30- 10(月・祝)16:00	Fr植栗 Frアレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター受付 デスク 082-239-0034

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

★会場が変更になる可能性があります。

- 入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

*前回、お祈りをお願いしていた「祈りの会」のスタッフ山藤誠司さんは、膵臓癌のため、8月17日（火）に帰天されました。癌の知らせを受けたのは6月でしたので、2ヶ月余でこの世を去ったこととなります。享年59歳でした。死の二週間前のメールの最後に、「私の命を与えてくださった、神さまに感謝です」とありました。山藤さんが主のもとで永遠の安息に入られるようお祈りください。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき ……つぶやき……

三密を避けつづけてきた、その向こうに…

最近、人々の中に出ていかなければならない時、思わず人を避けようとしている自分にあらためて気づかされます。今となつては無意識に近い形で、Covid19 ゆえの、自分以外の存在への恐れや警戒のようなものが身についてしまい、安全確保のために人から遠ざかり、気が付くと関係性の希薄化、果ては孤立してしまいそうなことが気になっています。

「神の位格は自存する関係であり、神をモデルにして創造された世界はかかわりからなる織物です」(『ラウダート・シ』240) という、わたしたち造られたものの本質を見直し、「人格は、神との、他者との、全被造物との交わりを生きるために、自分自身から出て行って、もろもろのかかわりに加わればそれだけ、いっそう成長し、いっそう成熟し、いっそう聖化されます」(同上) との呼びかきに耳を傾ける必要を感じています。さらに今、わたしたちは「あらゆるものは密接に関係し合っており、…すべてがつながっているといくら主張しても主張しすぎることはありません」(『ラウダート・シ』4章)といわれる視点に立ち戻り、何が離れ去っても「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28・20) とかかわりつづけていくださるお方を確認することから、パンデミック後の在り方を思いめぐらす時なのだ自らに言い聞かせています。

もう一つ気がかりなことは、教会活動にしても、個人的なことがらにしても心のどこかで、「コロナが終わったら…」、「緊急事態宣言が解除されてから…」と、今、生きている現実を「暫定的な期間」として捉えがちな傾向です。まるで、今の時が「生きることの本番ではない」かのような錯覚に陥ることです。それは、「今の時」の喪失であり、「未来」を喪失し、「生きる目的」の喪失につながりかねません。そんな中で、V. フランクルの『夜と霧』を読み直しています。

哲学用語を使えば、コペルニクスの転回が必要なのであり、もういいかげん、生きることの意味を問うことをやめ、わたしたち自身が問いの前に立っていることを思い知るべきなのだ。生きていることは日々、そして時々刻々、問いかけてくる。わたしたちはその問いに答えを迫られている。考えこんだり言辞を弄することによってではなく、ひとえに行動によって、適切な態度によって、正しい答えは出される。生きるとはつまり、生きることの問いに正しく答える義務、生きることが各人に課す課題を果たす義務、時々刻々の要請を充たす義務を引き受けることにほかならない。

(V・E・フランクル著 『夜と霧』新版 池田香代子訳「第二段階 収容所生活」p.129-130)

(Fr. 中川博道 o. c. d.)

